

尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 有馬和彦, 蒲池 誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 上谷雅孝, 青柳 潔, 江口勝美. 関節リウマチを早期に予測するには? 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.

- 12) 川上 純, 玉井慎美, 岩本直樹, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 有馬和彦, 山崎聡士, 上谷雅孝, 青柳 潔, 江口勝美. MRI 骨変化と自己抗体が陽性の UA に対する DMARDs 治療の評価. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
- 13) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 有馬和彦, 岩本直樹, 藤川敬太, 山崎聡士, 川尻真也, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳 潔, 江口勝美. 診断未確定関節炎(UA)における非造影手関節 MRI の有用性の検討. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
- 14) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 有馬和彦, 岩本直樹, 藤川敬太, 川尻真也, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 山崎聡士, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳 潔, 江口勝美. 診断未確定関節炎の評価. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
- 15) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 岩本直樹, 藤川敬太, 有馬和彦, 高尾正一郎, 折口智樹, 青柳 潔, 江口勝美. Leiden score と Nagasaki score を用いた診断未確定関節炎の評価. 第 106 回 日本内科学会講演会, 2009.4.10-12, 東京.
- 16) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 有馬和彦, 喜多潤子, 岡田覚丈, 川尻真

也, 古賀智裕, 岩本直樹, 山崎聡士, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳 潔, 江口勝美. 早期関節リウマチにおける抗 CCP 抗体価と骨破壊予測. 第 24 回 日本臨床リウマチ学会, 2009.11.20-21, 岩手.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
特になし
2. 実用新案登録  
特になし
3. その他  
特になし

表1 診断未確定関節炎129症例、初診時の血清マーカーとMRI所見

初診時検査結果	Progression to RA (n=75)	No progression to RA (n=54)	P value
<b>血清マーカー</b>			
IgM-RF 陽性率 (n, %)	39 (52.0)	16 (29.6)	< 0.05
Anti-CCP Ab 陽性率 (n, %)	43 (57.3)	4 (7.4)	< 0.0001
IgM-RF and/or Anti-CCP Ab 陽性率 (n, %)	50 (66.7)	18 (33.3)	< 0.0005
MMP-3 陽性率 (n, %)	27 (36.0)	8 (14.8)	< 0.01
MMP-3 値、median (range)、ng/ml	50.2 (0-1250)	34.8 (10.66-419.6)	< 0.005
CRP 陽性率 (n, %)	51 (68.0)	16 (29.6)	< 0.0001
CRP 値、median (range) mg/dl	0.50 (0.01-18.4)	0.10 (0-8.36)	< 0.0001
<b>MRI 所見</b>			
対称性手・指滑膜炎 陽性率 (n, %)	56 (74.7)	22 (40.7)	< 0.005
骨髄浮腫 陽性率 (n, %)	31 (41.3)	5 (9.3)	< 0.0001
骨浸食 陽性率 (n, %)	22 (29.3)	5 (9.3)	< 0.0001
骨髄浮腫 and/or 骨浸食 陽性率 (n, %)	36 (48.0)	9 (16.7)	< 0.0001

表2 診断未確定関節炎129症例、12ヶ月後の診断分類に対する単変量解析

初診時検査結果	感度 (%)	特異度 (%)	Odds ratio	p-value	95%CI
<b>血清マーカー</b>					
IgM-RF (%)	52.0	70.4	2.57	< 0.05	1.53-4.34
Anti-CCP Ab (%)	57.3	92.6	16.8	< 0.0001	7.63-36.99
MMP-3 (%)	36.0	85.2	3.23	< 0.01	1.73-6.03
<b>MRI 所見</b>					
対称性手・指滑膜炎 (%)	74.7	59.3	4.07	< 0.005	2.52-7.30
骨髄浮腫 (%)	41.3	90.7	6.90	< 0.0001	3.34-14.29
骨浸食 (%)	29.3	90.7	4.07	< 0.0001	1.94-8.52
<b>陽性予測値 (%) 陰性予測値 (%) LR+ LR- 正確度 (%)</b>					
<b>血清マーカー</b>					
IgM-RF (%)	70.9	51.4	1.76	0.682	59.7
Anti-CCP Ab (%)	91.5	61.0	7.74	0.461	72.1
MMP-3 (%)	77.1	48.9	2.43	0.751	56.6
<b>MRI 所見</b>					
対称性手・指滑膜炎 (%)	71.8	62.7	1.84	0.427	68.2
骨髄浮腫 (%)	86.1	52.7	4.44	0.647	62.0
骨浸食 (%)	81.5	48.0	3.18	0.779	55.0

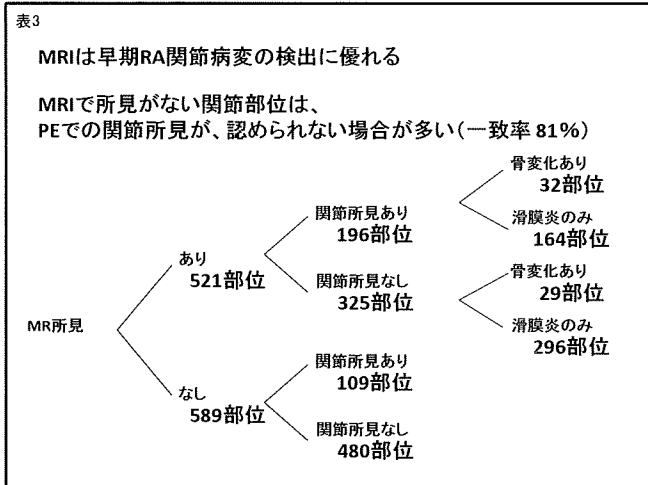


表4 患者登録(1)

患者登録フォーム

1 登録日	西暦□年□月□日
2 患者イニシャル	姓□名□
3 性別	○男 ○女
4 生年月日	西暦□年□月□日
5 登録日時点での年齢	自動表示
6 同意文書取得日	西暦□年□月□日
7 投与開始日	西暦□年□月□日
8 投与薬	○MTX ○SASP

\*ただし、7, 8は登録時には入力不能

表5 患者登録(2)

適格基準

1 自己抗体陽性ですか	○はい ○いいえ
2 MRIで骨変化を認めますか	○はい ○いいえ

除外基準

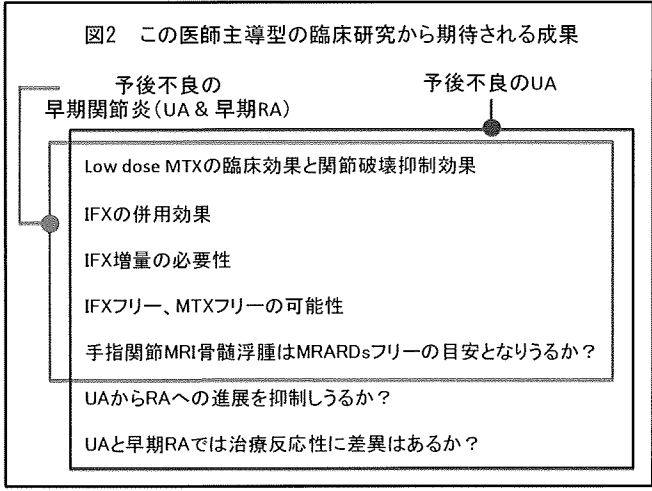
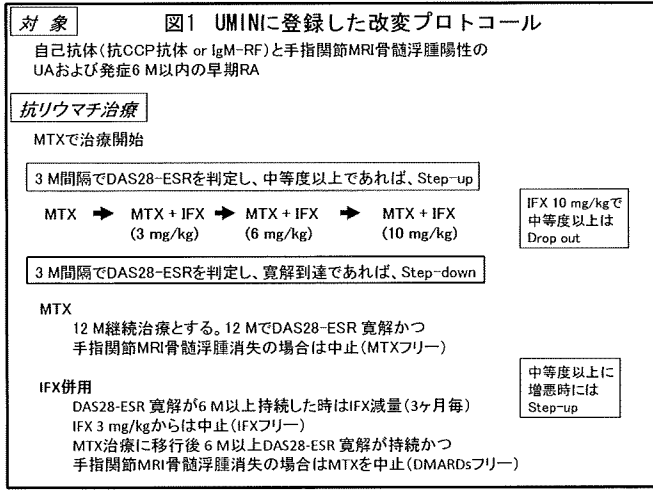
1 RA ACR分類基準を満たしますか	○はい ○いいえ
2 PSL内服がありますか	○はい ○いいえ
3 DMARDs内服がありますか	○はい ○いいえ
4 間質性肺疾患やCOPDがありますか	○はい ○いいえ
5 活動性のB型肝炎、C型肝炎がありますか	○はい ○いいえ

表6 割付仕様

<割付群>  
A群: メソトレキサート (MTX) 投与群  
B群: サラズルフアピリジン (SASP) 投与群

<割付因子>  
・ 年齢 (65才以上、65才未満)  
・ 性別 (男・女)  
・ 罹病期間 (6ヶ月以上、6ヶ月未満)

<割付決定までの流れ>  
1. 新規登録症例の罹病期間内でのA群とB群の合計を計算する。  
2. 罹病期間内でのA群とB群の偏りをなくするため、A群とB群の差が3以上の時は少ない割付群に強制割付する。差が3未満の場合は次に進む。  
3. 「罹病期間」を除く残りの2つの割付因子について、新規登録症例の割付因子となる情報から、既登録症例での各割付因子の値の合計を割付群毎に計算する。  
4. 算出した値を比較し、割付群を決定する。  
CASE1→A群とB群の合計の差が3以上の時、症例の少ない割付群に強制割付する。  
CASE2→A群とB群の合計が同数又は3未満の時、ランダムに割付ける。



## 関節リウマチの早期診断、早期治療、病態解析に関する研究

研究代表者：江口勝美

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座（第一内科） 教授

### 研究要旨

1.早期関節炎の診断基準 2.関節リウマチとCCL20 3.ACR 2009 RA新基準の評価の3点を中心に研究した。早期関節炎の診断に関しては診断未確定関節炎(UA)に関するコホート研究(長崎大学コホート)を対象としてNagasaki scoreを提唱した。Nagasaki scoreは1.手指関節MRI対称性滑膜炎 2.手指関節MRI骨変化(骨髄浮腫もしくは骨侵食) 3.血清自己抗体(抗CCP抗体もしくはIgM-RF)の3項目で2項目以上陽性の場合には1年後のACR 1987基準を満たすRA進展を陽性予測値79.7%で診断し(Nagasaki score-I)、また、MRI骨髄浮腫と自己抗体がともに陽性では陽性予測値100%の診断確率であった。このNagasaki score-IIを導入基準とする早期関節炎の治療に関する臨床研究をNagasaki Early Arthritis Intervention Trial(Nagasaki-Early Trial)としてUMINに登録し実施中である。関節リウマチとCCL20に関しては滑膜線維芽細胞(FLS)からのCCL20産生を中心に解析した。CCL20はFLSから産生され、これはIL-1b、TNF-a、IL-17、IL-6で相乗的に増強され、かつ、インフリキシマブ、エタネルセプト、トシリズマブで有意に抑制された。活動性RA患者の血清CCL20は健康人より有意に高値を示し、インフリキシマブ、エタネルセプト、トシリズマブの治療反応に応じて低下した。ACR 2009 RA新基準の評価は長崎大学コホートを用いて評価した。この基準はメトトレキサート治療導入を前提とする新たなRA診断基準案である。UA129症例のコホートではACR 2009 RA診断第一ステップに則ると44症例はエントリー期間に関節腫脹が明らかではなく非RAと分類されたが、この中から14症例は1年後にはACR 1987基準を満たすRAに進展した。残りの85症例のスコアリングでは61症例が1年後はACR 1987基準を満たすRAに進展し、これをアウトカムとした場合は感度67%、特異度54%、陽性予測値(PPV)79%、陰性予測値40%と算出された。Nagasaki scoreはACR 2009 RA診断基準と遜色はなかった。

### A. 研究目的

診断未確定関節炎(undifferentiated arthritis; UA)の概念は普及してきたが、関節リウマチ(rheumatoid arthritis; RA)に進展するUAの特徴は不明な点が多い。一方で2009年度の米国リウマチ学会(ACR 2009)ではメトトレキサート治療導入を前提とする新たなRA診断基準案が提唱された(ACR 2009 RA新基

準)。すなわちRAに進展するUAの抽出基準がRA早期診断基準である。早期からの積極的な治療導入を考えるとRAのバイオマーカー検索も重要であり、ケモカインリガンドCCL20はTh17細胞の組織浸潤を誘導する液性因子として注目されている。そこで今回、1.早期関節炎の診断基準 2.関節リウマチとCCL20 3.ACR 2009 RA新基準の評価の3点

を中心に研究した。

## B. 研究方法

### 1. 早期関節炎の診断基準に関する研究

長崎大学早期関節炎コホートに登録された UA 129 症例を解析した。エントリー時所見と 1 年後のアウトカム；臨床診断を比較した。私たちが preliminary score として Ann Rheum Dis 2006; 65; 133-5. に報告したスコアを UA を対象にオランダ早期関節炎研究グループ予測スコア (Leiden prediction rule) と比較検討した。

### 2. 関節リウマチと CCL20

RA 滑膜組織由来滑膜線維芽細胞 (FLS) からの CCL20 産生と RA 治療経過での血清 CCL20 を ELISA で評価した。

### 3. ACR 2009 RA 新基準の評価

これら症例の詳細は Tamai M, et al. Arthritis Rheum 2009; 61; 752-8 に記載されている。

これら 129 症例を ACR 2009 RA 新基準のフローチャート (第一ステップ: 腫脹関節、第二ステップ: X 線骨侵食、第三ステップ: スコアリング) に則り診断し、その診断確率を評価した。

## (倫理面への配慮)

研究プロトコールは倫理委員会に提出し、承認を得ている。研究へのエントリーは患者の自由意思にもとづいている。

## C. 研究結果

### 1. 早期関節炎の診断基準に関する研究

UA129 症例を解析した。1 年後の臨床診断は RA75 症例、非 RA54 症例であった。Leiden prediction rule は 14 点を最大値とするスコアリングでエントリー時スコアが 8 点以上は RA に進展しやすく、6 点以下は非 RA に留まると報告されている。今回の UA129 症例の

スコア分布を図 1 に示すが、RA 進展群の中央値は 7.78、非 RA 群の中央値は 5.28 であった。8 点以上は RA に進展と判断した場合、陽性予測値 96.3%、特異度 94.9%と高いも感度は 49.3%に留まった。表 1 に私たちが提唱する、MRI と自己抗体を用いる進展予測案を示す。3 項目中、2 項目以上陽性なら RA に進展と判断した場合、陽性予測値 79.7%、特異度 75.9%、感度 68.0%であった。予測スコア 8 点以上の群は MRI 骨髄浮腫と自己抗体陽性率が高かった。RA 進展予測に最も強く寄与する因子は抗 CCP 抗体と MRI 骨髄浮腫であった。自己抗体と骨髄浮腫がともに陽性の UA は全例 RA に進展していた (表 2) (N=24)。骨髄浮腫に関しては非造影 MRI は造影 MRI と遜色はなく、この Nagasaki score-II (MRI は造影でも非造影でも可) を導入基準とする早期関節炎の治療に関する臨床研究を Nagasaki Early Arthritis Intervention Trial (Nagasaki-Early Trial) として UMIN に登録し実施中である (表 3)。

### 2. 関節リウマチと CCL20

RA 滑膜組織から単離培養した FLS から産生される CCL20 を ELISA 法で測定した。FLS の CCL20 産生増強は IL-1b、TNF-a、IL-17 の順に強く、IL-6 単独での産生誘導作用はなかった。IL-1b、TNF-a、IL-17、IL-6 は CCL20 産生への相乗効果が認められ、この産生誘導は TNF 阻害剤 (図 1)、IL-6 阻害剤 (図 2) の添加で有意に抑制された。血清 CCL20 濃度は健常人 13 名 ( $6.6 \pm 6.6$  pg/ml) と比較して高疾患活動性 RA14 名 (DAS28-ESR:  $6.0 \pm 1.2$ 、 $49.7 \pm 37.5$  pg/ml) の血清 CCL20 は顕著に高値を示し、生物学的製剤投与 3-6 ヶ月後 (インフリキシマブ 5 名、エタネルセプト 4 名、トシリズマブ 5 名) に moderate response 以上の治療反応性が得られた時点では  $19.5 \pm 13.6$  pg/ml に有意に低下した。

### 3. ACR 2009 RA 新基準の評価

図3にACR 2009 RA 新基準のフローチャートと129症例の分布を示す。第一ステップは腫脹関節の有無で44症例は明らかな関節腫脹を認めず非RAと分類された。しかしながらこれら症例から14症例は1年の経過でACR 1987 RA 分類基準を満たすRAに進展した。残りの85症例はスコアリングでの評価に移行した。これに基づくスコアの分布と診断能を図4に示した。

表4にNagasaki scoreとACR 2009 RA 新基準の比較を示す。表中のLeiden scoreはLeiden prediction ruleに基づく8点と6点の評価基準で参考として表中に記した。

### D. 考 察

Nagasaki scoreはRAに進展するUAを効率よく抽出し早期RA診断基準と考えられた。特にNagasaki score-IIは早期からの治療介入基準に適しており、これを導入基準とするNagasaki-Early Trialを計画し実施中である。CCL20はFLSから炎症性サイトカイン誘導性に産生が増強された。また、そのRA患者血清濃度は生物学的製剤治療に反応し、Th17活性化のモニタリング指標に成りうる。Nagasaki scoreの診断能はACR 2009新基準と遜色はなかった。

### E. 結 論

Nagasaki scoreはRAの早期診断に非常に有用である。しかしながら今後はUAコホートをを用いてACR 2009 RA 新基準をNagasaki scoreと比較対照する形式での評価、特に骨侵食を反映するか否かの評価が重要と考えられる。Nagasaki-Early Trialの解析も必要である。CCL20はRAでの免疫反応活性化(Th17活性化)の指標と考えられる。今後は制御性T細胞機能を含めた前向き研究(特に早期関節

炎)での検証が必要である。

### F. 健康危機情報

特記すべきことなし

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

- 1) Nakamura H, Okada A, Kawakami A, Yamasaki S, Ida H, Masuda T, Fukuda T, Satoh K, Yoshimura T, Nakashima M, Hayashi T, **Eguchi K**. Rheumatoid vasculitis of crural muscles confirmed by muscle biopsy in the absence of inflammatory myopathy: histologic and MRI study. **Rheumatol Int**, 2009.
- 2) Kawashiri S, Kawakami A, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Tamai M, Arima K, Ichinose K, Kamachi M, Yamasaki S, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, **Eguchi K**. Switching to the anti-interleukin-6 receptor antibody tocilizumab in rheumatoid arthritis patients refractory to antitumor necrosis factor biologics. **Mod Rheumatol**, 2009. Accept.
- 3) Aramaki T, Kawakami A, Iwamoto N, Fujikawa K, Kawashiri S, Tamai M, Arima K, Kamachi M, Yamasaki S, Nakamura H, Nakashima M, Mizokami A, Furuyama M, Matsuoka N, Ueki Y, Ida H, Origuchi T, Aoyagi K, **Eguchi K**. Prediction of DAS28-CRP remission in patients with rheumatoid arthritis treated with tacrolimus at 6 months by baseline variables. **Mod Rheumatol**, 2009. Accept.
- 4) Ida H, Aramaki T, Nakamura H, Fujikawa K, Arima K, Tamai M, Kamachi M, Satoh K, Origuchi T, Kawakami A, Furuichi I, Kawabe Y, **Eguchi K**. Different expression levels of TNF receptors on the rheumatoid

- synovial macrophages derived from surgery and a synovectomy as detected by a new flow cytometric analysis. **Cytotechnology**, 2009. Accept.
- 5) Tamai M, Kawakami A, Uetani M, Takao S, Arima K, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Kawashiri S, Ichinose K, Kamachi M, Nakamura H, Origuchi T, Aoyagi K, **Eguchi K**. A prediction rule for disease outcome in patients with undifferentiated arthritis using MRI of wrists and finger joints and serologic autoantibodies. **Arthritis Rheum** 61 (6): 772-778, 2009.
  - 6) Tateishi Y, Iguchi Y, Kimura K, Kobayashi K, Shibasaki K, **Eguchi K**. Right-to-left shunts may be not uncommon cause of TIA in Japan. **J Neurol Sci** 277 (1-2): 13-16, 2009.
  - 7) Iwamoto N, Kawakami A, Tamai M, Fujikawa K, Arima K, Aramaki T, Kawashiri S, Ichinose K, Kamachi M, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, **Eguchi K**. Determination of the subset of Sjögren's syndrome with articular manifestations by anticyclic citrullinated peptide antibodies. **J Rheumatol** 36 (1): 113-115, 2009.
  - 8) Miyaaki H, Zhou H, Ichikawa T, Nakao K, Shibata H, Takeshita S, Akiyama M, Ozawa E, Miura S, **Eguchi K**. Study of liver-targeted regulatory T cells in hepatitis B and C virus in chronically infected patients. **Liver Int** 29 (5): 702-707, 2009.
  - 9) Kawasaki E, Awata T, Ikegami H, Kobayashi T, Maruyama T, Nakanishi K, Shimada A, Uga M, Kurihara S, Kawabata Y, Tanaka S, Kanazawa Y, **Eguchi K**. Genetic association between the IL2RA and mode of onset of type 1 diabetes in the Japanese population. **J Clin Endocrinol Metab** 94 (3): 947-952, 2009.
  - 10) Iwamoto N, Kawakami A, Tamai M, Fujikawa K, Arima K, Aramaki T, Kawashiri S, Ichinose K, Kamachi M, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, **Eguchi K**. Determination of the subset of Sjögren's syndrome with articular manifestations by anticyclic citrullinated peptide antibodies. **J Rheumatol** 36 (1): 113-115, 2009.
  - 11) Fujikawa K, Kawakami A, Tamai M, Uetani M, Takao S, Arima K, Iwamoto N, Aramaki T, Kawashiri S, Ichinose K, Kamachi M, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, Aoyagi K, **Eguchi K**. High serum cartilage oligomeric matrix protein determines the subset of patients with early-stage rheumatoid arthritis with high serum C-reactive protein, matrix metalloproteinase-3, and MRI-proven bone erosion. **J Rheumatol** 36 (6): 1126-1129, 2009.
  - 12) Iwamoto N, Kawakami A, Fujikawa K, Aramaki T, Kawashiri SY, Tamai M, Arima K, Ichinose K, Kamachi M, Yamasaki S, Nakamura H, Nakashima M, Mizokami A, Goto A, Fukuda T, Matsuoka N, Ueki Y, Tsukada T, Migita K, Shoumura F, Kawabe Y, Shibatomi K, Mine M, Ida H, Origuchi T, Aoyagi K, **Eguchi K**. Prediction of DAS28-ESR remission at 6 months by baseline variables in patients with rheumatoid arthritis treated with etanercept in Japanese population. **Mod Rheumatol** 19 (5): 488-492, 2009.
  - 13) Kawashiri S, Kawakami A, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Tamai M, Arima K, Kamachi M, Yamasaki S, Nakamura H, Tsurumoto T, Kono M, Shindo H, Ida H, Origuchi T, **Eguchi K**. Proinflammatory cytokines synergistically enhance the

- production of chemokine ligand 20 (CCL20) from rheumatoid fibroblast-like synovial cells in vitro and serum CCL20 is reduced in vivo by biologic disease-modifying antirheumatic drugs. **J Rheumatol** 36 (11): 2397-2402, 2009.
- 1) Akiyama M, Miyaaki H, Miuma S, Shibata H, Fujimoto M, Takeshita S, Ozawa E, Ichikawa T, Nakao K, **Eguchi K**. Significance of trans-hepatic arterial chemotherapy for advanced hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombus. **Oncol Rep** 20 (2): 353-357, 2008.
  - 2) Goto T, Ishikawa H, Matsumoto K, Nishimura D, Kusaba M, Taura N, Shibata H, Miyaaki H, Ichikawa T, Hamasaki K, Nakao K, Maeshima Y, **Eguchi K**. Tum-1, a tumstatin fragment, gene delivery into hepatocellular carcinoma suppresses tumor growth through inhibiting angiogenesis. **Int J Oncol** 33 (1): 33-40, 2008.
  - 3) Hirano K, Ichikawa T, Nakao K, Matsumoto A, Miyaaki H, Shibata H, Eguchi S, Takatsuki M, Ikeda M, Yamasaki H, Kato N, Kanematsu T, Ishii N, **Eguchi K**. Differential effects of calcineurin inhibitors, tacrolimus and cyclosporine A, on interferon-induced antiviral protein in human hepatocyte cells. **Liver Transplant** 14 (3): 292-298, 2008.
  - 4) Kusumoto K, Yatsushashi H, Nakao R, Hamada R, Fukuda M, Tamada Y, Taura N, Komori A, Daikoku M, Hamasaki K, Nakao K, Ishibashi H, Miyakawa Y, **Eguchi K**. Detection of HBV core promoter and precore mutations helps distinguish flares of chronic hepatitis from acute hepatitis B. **J Gastroenterol Hepatol** 23 (5): 790-793, 2008.
  - 5) Miyasaka N, **Eguchi K**, the CHANGE study investigators. Clinical investigation in highly disease-affected rheumatoid arthritis patients in Japan with adalimumab applying standard and general evaluation: the CHANGE study. **Mod Rheumatol** 18 (3): 252-262, 2008.
  - 6) Yoshizaki A, Kawakami A, Aramaki T, Ida H, **Eguchi K**. Preferential recovery by an intensive initial therapy from hemophagocytic syndrome complicated with adult onset Still's disease presenting as agranulocytosis and hypercytokinemia. **Clin Exp Rheumatol** 26(2): 383, 2008.
  - 7) Kasagi S, Kawano S, Nakazawa T, Sugino H, Koshiha M, Ichinose K, Ida H, **Eguchi K**, Kumagai S. A case of periodic-fever-syndrome-like disorder with lipodystrophy, myositis, and autoimmune abnormalities. **Mod Rheumatol** 18(2): 203-207, 2008.
  - 8) Hida A, Akahoshi M, Takagi Y, Ashizawa K, Imaizumi M, Soda M, Maeda R, Nakashima E, Ida H, Kawakami A, Nakamura T, **Eguchi K**. Prevalence of Sjögren syndrome among Nagasaki atomic bomb survivors. **Ann Rheum Dis** 67(5): 689-695, 2008.
  - 9) Fujikawa K, Kawakami A, **Eguchi K**. Recovery from multiple cranial nerve palsy of Wegener granuloma with infliximab. **J Rheumatol** 35(7): 1471, 2008.
  - 10) Nakamura H, Takagi Y, Kawakami A, Ida H, Nakamura T, Nakamura T, **Eguchi K**. HTLV-I infection results in resistance toward salivary gland destruction of Sjögren's syndrome. **Clin Exp Rheumatol** 26(4): 653-655, 2008.
  - 11) Nakamura H, Tateishi S, Kawakami A, Ida H, Fukuda T, Sasaki M, Koide Y, Ashizawa



- N, Seto S, Hayashi T, Sato S, **Eguchi K**. A case of mixed connective tissue disease complicated with hypertrophic obstructive cardiomyopathy. **Rheumatol Int** 28(12): 1273-1275, 2008.
- 12) Nakamura H, Kawakami A, Iwamoto N, Ida H, Koji T, **Eguchi K**. Rapid and significant induction of TRAIL-mediated type II cells in apoptosis of primary salivary epithelial cells in primary Sjögren's syndrome. Apoptosis: an international journal on programmed cell death. **Apoptosis** 13(11): 1322-1330, 2008.
- 13) Nakamura H, Usa T, Motomura M, Ichikawa T, Nakao K, Kawasaki E, Tanaka M, Ishikawa K, **Eguchi K**. Prevalence of interrelated autoantibodies in thyroid disease and autoimmune disorders. **J Endocrinol Invest** 31 (10): 861-865, 2008.
- 14) Fukushima K, Abiru N, Nagayama Y, Kobayashi M, Satoh T, Nakahara M, Kawasaki E, Yamasaki H, Ueha S, Matsushima K, Liu E, **Eguchi K**. Combined insulin B:9-23 self-peptide and polyinosinic-polycytidylic acid accelerate insulinitis but inhibit development of diabetes by increasing the proportion of CD4<sup>+</sup> Foxp3<sup>+</sup> regulatory T cells in the islets in non-obese diabetic mice. **Biochem Bioph Res Com** 367 (4): 719-724, 2008.
- 15) Kawasaki E, Kuriya G, Satoh T, Fujishima K, Moriuchi A, Fukushima K, Ozaki M, Abiru N, Yamasaki H, **Eguchi K**. Humoral immune response to islet autoantigens in Japanese patients with type 1 diabetes. **Ann N Y Acad Sci** 1150:248-251, 2008.
- 16) Kawasaki E, Imagawa A, Makino H, Uga M, Abiru N, Hanafusa T, Uchigata Y, **Eguchi K**. Differences in the contribution of CTLA4 gene to susceptibility to fulminant and type 1A diabetes in Japanese patients. **Diabetes Care** 31(8): 1608-1610, 2008.
- 17) Kawasaki E, Uga M, Nakamura K, Kuriya G, Satoh T, Fujishima K, Ozaki M, Abiru N, Yamasaki H, Wenzlau JM, Davison HW, Hutton JC, **Eguchi K**. Association between anti-ZnT8 autoantibody specificities and SLC30A8 Arg325Trp variant in Japanese patients with type 1 diabetes. **Diabetologia** 51 (12): 2299-2302, 2008.
- 18) Imaizumi M, Ashizawa K, Neriishi K, Akahoshi M, Nakashima E, Usa T, Tominaga T, Hida A, Sera N, Soda M, Fujiwara S, Yamada M, Maeda R, Nagataki S, **Eguchi K**. Thyroid diseases in atomic bomb survivors exposed in utero. **J Clin Endocrinol Metab** 93(5): 1641-1648, 2008.
- 19) Fukushima N, Nakamura T, Nishiura Y, Ida H, Aramaki T, **Eguchi K**. HTLV-I production based on activation of integrin/ligand signaling in HTLV-I-infected T cell lines derived from HAM/TSP patients. **Intervirology** 51(2): 123-129, 2008.
- 20) Tateishi Y, Iguchi Y, Kimura K, Inoue T, Shibasaki K, **Eguchi K**. Contrast-enhanced transcranial color-coded duplex sonography criteria for basilar artery stenosis. **J Neuroimaging** 18(4): 407-410, 2008.
- 21) Miyaaki H, Ichikawa T, Nakao K, Yatsuhashi H, Furukawa R, Ohba K, Omagari K, Kusumoto Y, Yanagi K, Inoue O, Kinoshita N, Ishibashi H, Yano M, **Eguchi K**. Clinicopathological study of nonalcoholic fatty liver disease in Japan: the risk factors for fibrosis. **Liver Int.** 28 (4): 519-524, 2008.
- 22) Shibata H, Ichikawa T, Nakao K, Miyaaki H, Takeshita S, Akiyama M, Fujimoto M,

- Miuma S, Kanda S, Yamasaki H, **Eguchi K**. A high glucose condition sensitizes human hepatocytes to hydrogen peroxide-induced cell death. **Mol Med Rep** 1: 379-385, 2008.
- 14) Migita K, Abiru S, Tanaka M, Ito M, Miyashita T, Maeda Y, Koga T, Nakamura M, Komori A, Yatsushashi H, Ida H, **Eguchi K**, Hirayama K, Yasunami M, Ishibashi H. Acute hepatitis in a patient with familial Mediterranean fever. **Liver Int** 28 (1): 140-142, 2008.
- 15) Satoh K, Shirabe S, Eguchi H, Tsujino A, Motomura M, Satoh A, Tsujihata M, **Eguchi K**. Chronological changes in MRI and CSF biochemical markers in Creutzfeldt-Jakob disease patients. **Dement Geriatr Cogn Disord** 23 (6): 372-381, 2007.
- 16) Moriuchi A, Yamasaki H, Shimamura M, Kita A, Kuwahara H, Fujishima K, Satoh T, Fukushima K, Fukushima T, Hayakawa T, Mizuguchi H, Nagayama Y, Abiru N, Kawasaki E, **Eguchi K**. Induction of human adiponectin gene transcription by telmisartan, angiotensin receptor blocker, independently on PPAR-gamma activation. **Biochem Biophys Res Commun** 356 (4): 1024-1030, 2007.
- 17) Fukushima N, Nishiura Y, Nakamura T, Kohno S, **Eguchi K**. Blockade of IL-2 receptor suppresses HTLV-I and IFN-gamma expression in patients with HTLV-I-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. **Intern Med** 46 (7): 347-351, 2007.
- 18) Migita K, Maeda Y, Abiru S, Nakamura M, Komori A, Miyazoe S, Nakao K, Yatsushashi H, **Eguchi K**, Ishibashi H. Polymorphisms of interleukin-1beta in Japanese patients with hepatitis B virus infection. **J Hepatol** 46 (3): 381-386, 2007.
- 19) Ando T, Yasui J, Inokuchi N, Usa T, Ashizawa K, Kamihara S, **Eguchi K**. Non-specific activities against ruthenium crosslinker as a new cause of assay interference in an electrochemiluminescent immunoassay. **Intern Med** 46 (15): 1225-1229, 2007.
- 20) Iwanaga N, Kamachi M, Fujikawa K, Aramaki T, Izumi Y, Arima K, Tamai M, Aratake K, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, Kawakami A, Taguchi T, **Eguchi K**. Membranous glomerulonephritis and non-Hodgkin's lymphoma in a patient with primary Sjögren's syndrome. **Intern Med** 46 (4): 191-194, 2007.
- 21) Fujikawa K, Aratake K, Kawakami A, Aramaki T, Iwanaga N, Izumi Y, Arima K, Kamachi M, Tamai M, Huang M, Nakamura H, Nishiura Y, Origuchi T, Ida H, **Eguchi K**. Successful treatment of refractory neuro-Behçet's disease with infliximab: a case report to show its efficacy by magnetic resonance imaging, transcranial magnetic stimulation and cytokine profile. **Ann Rheum Dis** 66 (1): 136-137, 2007.
- 22) Soejima K, Nakamura H, Tamai M, Kawakami A, **Eguchi K**. Activation of MKK4 (SEK1), JNK, and c-Jun in labial salivary infiltrating T cells in patients with Sjögren's syndrome. **Rheumatol Int** 27 (4): 329-333, 2007.
- 23) Kawasaki S, Nakamura H, Honda E, Iwanaga N, Kawakami A, Ida H, Origuchi T, Honda S, Tsuchihashi Y, Yoshimine H, **Eguchi K**. Tacrolimus as a reinforcement therapy for a patient with

- MPO-ANCA-associated diffuse alveolar hemorrhage. **Clin Rheumatol** 26 (7): 1211-1214, 2007.
- 24) Mutsukura K, Nakamura H, Iwanaga N, Kawakami A, Origuchi T, Furuyama M, **Eguchi K**. Successful treatment of a patient with primary Sjögren's syndrome complicated with pericarditis during pregnancy. **Intern Med** 46 (14): 1143-1148, 2007.
- 25) Kawakami A, Nakashima K, Tamai M, Nakamura H, Iwanaga N, Fujikawa K, Aramaki T, Arima K, Iwamoto N, Ichinose K, Kamachi M, Ida H, Origuchi T, **Eguchi K**. Toll-like receptor in salivary glands from patients with Sjögren's syndrome: Functional analysis by human salivary gland cell line. **J Rheumatol** 34 (5): 1019-1026, 2007.
- 26) Izumikawa K, Morinaga Y, Kondo A, Hara K, Izumikawa K, Miyazaki Y, Kohno S, Igari N, Akaboshi M, Kawakami A, **Eguchi K**. Adult Still's disease associated with cytomegalovirus infection. **J Infect Chemother** 13 (2): 114-117, 2007.
- 27) Ichinose K, Kawasaki E, **Eguchi K**. Recent advancement of understanding pathogenesis of type 1 diabetes and potential relevance to diabetic nephropathy. **Am J Nephrol** 27 (6): 554-564, 2007.
- 28) Satoh K, Shirabe S, Tsujino A, Eguchi H, Motomura M, Honda H, Tomita I, Satoh A, Tsujihata M, Matsuo H, Nakagawa M, **Eguchi K**. Total tau protein in cerebrospinal fluid and diffusion-weighted MRI as an early diagnostic marker for Creutzfeldt-Jakob disease. **Dement Geriatr Cogn Disord** 24 (3): 207-212, 2007.
- 29) Mizutori Y, Saitoh O, **Eguchi K**, Nagayama Y. Lack of effect of methimazole on dendritic cell (DC) function and DC-induced Graves' hyperthyroidism in mice. **Autoimmunity** 40 (5): 397-402, 2007.
- 30) Nakamura H, Aramaki T, Arima K, Iwamoto N, Nakajima H, Iwanaga N, Kawakami A, Ida H, Origuchi T, Yamachika S, Tsuchihashi Y, Kamihira S, **Eguchi K**. Deep vein thrombosis and pulmonary thromboembolism in a patient with eosinophilia and obesity. **Acta Med Nagasaki** 52 (3): 87-91, 2007.
- 31) Koike R, Takeuchi T, **Eguchi K**, Miyasaka N. Update on the Japanese guidelines for the use of infliximab and etanercept in rheumatoid arthritis. **Mod Rheumatol** 17(6): 451-458, 2007.
- 32) **Eguchi K**, Saito K, Kondo M, Hidaka T, Ueki Y, Tanaka Y. Enhanced effect of high-dose leukocytapheresis using a large filter in rheumatoid arthritis. **Mod Rheumatol** 17 (6): 481-485, 2007.
- 33) Ichikawa T, Nakao K, Hamasaki K, Furukawa R, Tsuruta S, Ueda Y, Taura N, Shibata H, Fujimoto M, Toriyama K, **Eguchi K**. Role of growth hormone, insulin-like growth factor 1 and insulin-like growth factor-binding protein 3 in development of non-alcoholic fatty liver disease. **Hepatolo Int** 1 (2): 287-294, 2007.
- 34) Ichikawa T, Nakao K, Hamasaki K, Honda T, Shibata H, Akahoshi M, Eguchi S, Takatsuki M, Kanematsu T, **Eguchi K**. Clearance of hepatitis C virus after living-donor liver transplantation in spite of residual viremia on end date of interferon therapy before transplantation. **World J**

- Gastroenterol** 13 (30): 4149-4151, 2007.
- 35) Kusaba M, Nakao K, Goto T, Nishimura D, Kawashimo H, Shibata H, Motoyoshi Y, Taura N, Ichikawa T, Hamasaki K, **Eguchi K**. Abrogation of constitutive STAT3 activity sensitizes human hepatoma cells to TRAIL-mediated apoptosis. **J Hepatol** 47 (4): 546-555, 2007.
- 36) Miyaaki H, Nakashima O, Kurogi M, **Eguchi K**, Kojiro M. Lens culinaris agglutinin-reactive alpha-fetoprotein and protein induced by vitamin K absence II are potential indicators of a poor prognosis: a histopathological study of surgically resected hepatocellular carcinoma. **J Gastroenterol** 42 (12): 962-968, 2007.
- 37) Nakamura H, Kawakami A, Ida H, Koji T, **Eguchi K**. EGF activates PI3K-Akt and NF-kappaB via distinct pathways in salivary epithelial cells in Sjögren's syndrome. **Rheumatol Int** 28 (2): 127-136, 2007.
- 38) 江口勝美. 関節リウマチの活動性評価と寛解評価. **Rheumatology Clinical Update** 16: 14-19, 2009.
- 39) 江口勝美, 玉井慎美, 川上 純, 藤川敬太, 有馬和彦, 山崎聡士, 荒牧俊幸, 折口智樹, 宇佐俊郎. リウマチ(膠原病)・アレルギー学. **日本医事新報** 4425: 63-73, 2009.
- 40) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断. **カレントセラピー** 27 (6): 485-490, 2009.
- 41) 江口勝美, 宇佐俊郎, 上谷雅孝. 非造影 1.5T MRI 画像により関節リウマチ発症を早期に予測できるのか? **分子リウマチ治療** 2 (1): 27-33, 2009.
- 42) 江口勝美. リウマチ発症を早期に予測する手段とは? **Mebio** 26 (7): 71-85, 2009.
- 43) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断による発症及び重症化予防. 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 研究報告書 : 1-28, 2009.
- 44) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断、早期治療、病態解析に関する研究. 平成 20 年度 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 研究報告書 : 52-65, 2009.
- 45) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断による発症及び重症化予防. 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 平成 20 年度 総括・分担研究報告書 : 3-38, 2009.
- 46) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断、早期治療、病態解析に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 平成 19 年度総括・分担研究報告書 : 65-78, 2009.
- 47) 江口勝美. 5. 早期診断予測と早期治療. **医薬ジャーナル** 45 (10): 105-113, 2009.
- 48) 川上 純, 玉井慎美, 川尻真也, 岩本直樹, 江口勝美. 【内科医が診る関節リウマチ State of Art】診断に必要な知識とは? 内科医が知っておくべきポイント 早期診断に必要な検査とは? **内科** 103 (4): 641-644, 2009.
- 49) 川上 純, 川尻真也, 玉井慎美, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 江口勝美. 関節リウマチの寛解導入に関するマーカーの抽出に関する研究. 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業)研究分担報告書 : 50-57, 2009.
- 50) 川上 純, 玉井慎美, 中島宗敏, 安部恵代, 青柳 潔, 江口勝美. ELISA 法による抗 CCP 抗体測定キット(コスミック

- 社)の臨床的評価. **医学と薬学** 61(4): 647-650, 2009.
- 51) 川上 純, 玉井慎美, 岩本直樹, 川尻真也, 藤川敬太, 江口勝美. 【関節リウマチ 治癒を目指す治療の新時代へ】 治療に直結する病因・病態研究最前線 治療反応性と関連する予後因子. **最新医学** 64 (5): 974-980, 2009.
- 52) 川上 純, 江口勝美. 【新たな生物学的製剤によるリウマチ性疾患の治療】 Abatacept による RA の治療. **リウマチ科** 41 (3): 246-251, 2009.
- 53) 玉井慎美, 川上 純, 藤川敬太, 有馬和彦, 山崎聡士, 荒牧俊幸, 折口智樹, 宇佐俊郎, 江口勝美. 【臨床医学の展望 2009 診断および治療上の進歩】 リウマチ(膠原病)・アレルギー学 1. RA (2) RA における画像診断. **日本医事新報** 4425: 65-66, 2009.
- 54) 川尻真也, 川上 純, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 有馬和彦, 中村英樹, 喜多雅子, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. 肺胞出血および急速進行性糸球体腎炎により再燃した顕微鏡的多発血管炎の一例. **日本臨床免疫学会会誌** 32 (3): 189-194, 2009.
- 55) 川上 純, 川尻真也, 玉井慎美, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 江口勝美. 関節リウマチの寛解導入に関するマーカーの抽出に関する研究. **免疫アレルギー医療分野, 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業)研究分担報告書第 2 分冊** : 119-126, 2009.
- 56) 川上 純, 玉井慎美, 喜多潤子, 川尻真也, 岩本直樹, 江口勝美. Undifferentiated arthritis におけるアウトカム予測と治療法の決定. **リウマチ科** 42 (1): 60-64, 2009.
- 57) 川上 純, 玉井慎美, 喜多潤子, 川尻真也, 岩本直樹, 江口勝美. 特集 膠原病・リウマチ性疾患診察のより深い理解を目指して トピックス I. 診断を的確に下すために 1. 診断不明の関節炎を如何に診断するか. **日本内科学会雑誌** 98 (10): 2414-2420, 2009.
- 58) 江口勝美. 特集 関節リウマチの治療目標～寛解と QOL の向上を目指して～ 5. 早期診断予測と早期治療. **医薬ジャーナル** 45 (10): 105-113, 2009.
- 59) 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美, 青柳 潔, 上谷雅孝. 関節リウマチに進展する診断未確定関節炎の特徴. **九州リウマチ** 29 (2): 69-73, 2009.
- 60) 上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 【早期リウマチ】 早期関節リウマチの MRI 診断. **整形・災害外科** 52 (10): 1169-1177, 2009.
- 61) 江口勝美. リウマチ・膠原病の早期診断. **からだの科学** 256: 24-29, 2008.
- 62) 江口勝美. TNF 阻害薬と結核症 **呼吸器** 13 (1): 84-91, 2008.
- 63) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断・治療—その重要性和実際— **Medical Practice** 25 (8): 1341-1347, 2008.
- 64) 江口勝美, 上谷雅孝. MRI を用いた関節リウマチの早期診断予測 **関節外科** 27 (10 増刊): 82-95, 2008.
- 65) 江口勝美, 宇佐俊郎, 上谷雅孝. 画像診断 **総合臨床** 57 (12): 2846-2854, 2008.
- 66) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断予測と適切な治療 **日本臨床内科医会会誌** 23 (4): 389-397, 2008.
- 67) 松原 司, 江口勝美, 三森経世. 関節リウマチの診断方法の進歩 **診断と治療** 96 (2): 369-376, 2008.

- 68) 江口勝美, 右田清志, 川上 純, 折口智樹, 井田弘明, 中村英樹, 玉井慎美, 蒲池 誠. 【臨床医学の展望】リウマチ(膠原病)・アレルギー学. **日本医事新報** 4372: 64-73,2008.
- 69) 井田弘明, 江口勝美. TRAPS の分子病態. **炎症と免疫** 16(2): 139-148,2008.
- 70) 一瀬邦弘, 川上 純, 江口勝美. 早期症例への積極的導入の意義. **Progress in Medicine** 28(1): 41-47,2008.
- 71) 折口智樹, 江口勝美. 新しい生物学的製剤開発の現状と将来展望. **Progress in Medicine** 28(1): 91-97,2008.
- 72) 川上 純, 玉井慎美, 岩本直樹, 江口勝美. «早期診断・早期治療のこつと治療のアルゴリズム» 関節リウマチ. **内科** 101(4): 629-634,2008.
- 73) 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. EULAR 早期関節ガイドライン. **リウマチ科** 39(5): 449-453 2008.
- 74) 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 早期関節炎と関節リウマチ. **長崎市医師会報** 42(6): 36-39 2008.
- 75) 川尻真也, 川上 純, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. 高尿酸血症の持続により持続性の多発関節炎を呈した慢性結節性通風の一例. **Jpn J Clin Immunol** 31(3):190-194,2008.
- 76) 井田弘明, 一瀬邦弘, 荒牧俊幸, 右田清志, 江口勝美. TNF receptor-associated periodic syndrome(TRAPS)の全国疫学調査. **小児科** 49(10): 1349-1356,2008.
- 77) 川上 純, 玉井慎美, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川啓太, 江口勝美. 診断未確定関節炎の治療. **リウマチ科** 40(3): 303-308,2008.
- 78) 上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. PART2 骨関節疾患の MR imaging 関節炎の MRI 関節リウマチを中心に. **臨床画像** 24(11): 1336-1345,2008.
- 79) 塩月香那子, 後藤貴史, 宮明寿光, 市川辰樹, 中尾一彦, 江口勝美. 抗 GAD 抗体陽性 C 型慢性肝炎に対するインターフェロン療法の検討. **肝臓** 49 (3) : 122-124,2008.
- 80) 阿比留教生, 江口勝美. 自己抗原の経粘膜投与による自己免疫疾患の発症抑制 -1 型糖尿病とインスリン B 鎖ペプチドを中心に-. **臨床免疫・アレルギー科** 50(1): 90-97,2008.
- 81) 川崎英二, 江口勝美. 糖尿病基礎研究の進歩 糖尿病と耐糖能低下の成因分類と発症機序 1 型糖尿病 膵島炎発症の分子メカニズム. **日本臨床** 66 (増3): 348-353, 2008.
- 82) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断による発症及び重症化予防. **厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業)平成 19 年度総括・分担研究報告書**, pp.3-28,2008.
- 83) 江口勝美. 病態形成における TH17 細胞と制御性 T 細胞の役割とその統御方法の開発 早期診断予測基準と早期関節破壊進行基準の妥当性の研究. **厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業)平成 19 年度総括・分担研究報告書**, pp.63-74,2008.
- 84) 荒牧俊幸, 井田弘明, 岩本直樹, 藤川敬太, 一瀬邦弘, 岩永 希, 玉井慎美, 有馬和彦, 蒲池 誠, 中村英樹, 川上 純, 江口勝美, 折口智樹, 中島宗敏, 塚田敏昭, 松岡直樹, 植木幸孝, 福田孝昭. 多施設における関節リウマチ患者に対するタクロリムスの短期成績. **九州リウ**

- マチ 26 (2): 102-108, 2007.
- 85) 岩本直樹, 川上 純, 江口勝美, 後藤明子, 福田孝昭, 中島宗敏, 河部庸次郎, 松岡直樹, 溝上明成, 古山雅子, 塚田敏昭, 右田清志, 峰 雅宣, 植木幸孝. 関節リウマチに対するエタネルセプトの治療成績の検討: 併用抗リウマチ薬による層別化. 九州リウマチ 27: 8-14, 2007.
- 86) 岩本直樹, 荒武弘一朗, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 川上純, 江口勝美, 折口智樹. ミゾリビン投与により寛解を得られている増殖性ループス腎炎の1例. 九州リウマチ 27: 41-45, 2007.
- 87) 中島宗敏, 川上 純, 江口勝美. Mollaret 髄膜炎を合併したリウマチ性多発筋痛症の一例. 九州リウマチ 27: 52-55, 2007.
- 88) 一瀬邦弘, 川上 純, 江口勝美. 【関節リウマチにおける生物学的製剤の実際と問題点】アダリムマブ -PREMIER 試験の示すもの-. リウマチ科 37 (1): 17-21, 2007.
- 89) 江口勝美, 折口智樹, 一瀬邦弘, 川上純. 【新薬展望2007】治療における最近の新薬の位置付け<薬効別> 新薬の広場 抗リウマチ薬. 医薬ジャーナル 43 (増刊): 386-393, 2007.
- 90) 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 早期関節炎の捉え方と病態解析の方向性. 日本臨床免疫学会会誌 30 (1): 37-40, 2007.
- 91) 江口勝美. 【プライマリ・ケア医のための関節リウマチの診かた 知っておきたいその基本と最新知見】関節リウマチの早期診断. 治療 89 (2): 345-350, 2007.
- 92) 江口勝美. 【関節リウマチの最新治療】関節リウマチの早期診断とその意義. Medical Science Digest 33 (2): 697-701, 2007.
- 93) 上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 【骨軟部画像診断の新たなる展開】早期関節リウマチのMRI診断. 日独医報 51 (4): 659-668, 2007.
- 94) 江口勝美. ここまで知っておきたい痛みへのアプローチ 関節リウマチへの新たなアプローチ 1. 早期診断と早期治療. 痛みと臨床 7 (2): 172-179, 2007.
- 95) 江口勝美. 【関節リウマチの骨・軟骨破壊】関節破壊進行の予測因子. Clinical Calcium 17 (4): 517-525, 2007.
- 96) 井田弘明, 江口勝美. 【Autoinflammatory syndrome の新たなる展開と治療法の確立】TRAPS の診断と新しい治療法の展開. 日本臨床免疫学会会誌 30 (2): 90-100, 2007.
- 97) 江口勝美, 折口智樹. 実践講座 疾患特有の評価法 関節リウマチ. 総合リハビリテーション 35 (4): 365-371, 2007.
- 98) 江口勝美. 【リウマチ治療の新時代 治療薬を使いこなす】関節リウマチの早期診断-いかに早期から診断するか?. 内科 99 (4): 587-594, 2007.
- 99) 岩永 希, 川上 純, 江口勝美. 【関節リウマチのパラダイムシフト 生物学的製剤時代の最新治療動向】生物学的製剤の最新エビデンス アダリムマブの欧米におけるエビデンス. 医学のあゆみ 221 (5): 437-440, 2007.
- 100) 江口勝美. 卒後研修講座 関節リウマチの早期診断と臨床経過の予知. 整形外科 58 (5): 571-575, 2007.
- 101) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断と関節破壊進行の予知. 炎症と免疫 15 (4): 519-525, 2007.

- 102)藤川敬太, 川上 純, 江口勝美. 【生物学的製剤の免疫薬理と臨床 変貌する関節リウマチ治療ストラテジー】主要な生物学的製剤の構造、免疫薬理学的特徴と有用性のエビデンス サイトカインを標的とする生物学的製剤 TNF 阻害薬 可溶性 TNF 受容体 IgG キメラ (エタネルセプト). *日本臨床* 65 (7): 1211-1217, 2007.
- 103)江口勝美. 【生物学的製剤の免疫薬理と臨床 変貌する関節リウマチ治療ストラテジー】TNF 阻害薬の臨床 我が国における臨床成績を中心に 市販後全例使用成績が示す臨床的有用性と使用上の留意点 エタネルセプト. *日本臨床* 65 (7): 1259-1266, 2007.
- 104)蒲池 誠, 江口勝美. 【SLE の発症機序と新たな治療法の探索】SR 蛋白質のリン酸化、脱リン酸化と alternative splicing 制御 SLE (全身性エリテマトーデス)における病態的意義と新規治療法への展望. *リウマチ科* 38 (2): 109-112, 2007.
- 105)折口智樹, 江口勝美. 【新しい生物学的製剤】完全ヒト抗 TNF $\alpha$  抗体 adalimumab. *炎症と免疫* 15 (5): 558-564, 2007.
- 106)井田弘明, 江口勝美. Autoinflammatory syndrome. *リウマチ科* 38 (3): 283-289, 2007.
- 107)江口勝美. 【関節リウマチ 患者さんに信頼されるための最新知識とその活用】関節リウマチ・トピックス 関節リウマチと抗 CCP 抗体 早期診断と早期治療への有用性. *Medical Practice* 24 (10): 1783-1784, 2007.
- 108)井田弘明, 江口勝美. 【発熱と多関節痛を主訴とする疾患 その病因と膠原病との鑑別について】TRAPS (TNF receptor-associated periodic syndrome). *リウマチ科* 38 (4): 361-369, 2007.
- 109)江口勝美. 【整形外科医のための care と cure I RA の window of opportunity を逃さないために】整形外科医のための RA 診断 診断未確定関節炎症例の RA 発症と関節破壊の出現・進行の予測. *骨・関節・靭帯* 20 (10): 941-949, 2007.
- 110)上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 【整形外科医のための care と cure I RA の window of opportunity を逃さないために】整形外科医のための RA 診断 早期関節リウマチの MRI. *骨・関節・靭帯* 20 (10): 983-991, 2007.
- 111)江口勝美. 関節リウマチと抗 CCP 抗体. *関節リウマチ* 24 (10): 1783-1784, 2007.
- 112)江口勝美. 関節リウマチの診断. *Animus* 49 (春): 17-21, 2007.
- 113)川上 純, 中村英樹, 江口勝美. 【TNF ファミリーの分子リウマチ学 基礎から臨床へ】FasL/Fas (CD95). *分子リウマチ* 4 (4): 320-323, 2007.
- 114)蒲池 誠, 江口勝美. シグナル伝達経路を介した alternative splicing の誘導 – その生物学的意義と制御メカニズム –. *Inflammation and Regeneration* 27 (6): 575-578, 2007.
- 115)江口勝美. 【関節リウマチ治療 インフリキシマブとエタネルセプト】エタネルセプトの使い方 ガイドライン. *Mebio* 24 (12): 50-56, 2007.
- 116)折口智樹, 一瀬邦弘, 玉井慎美, 中村英樹, 川上 純, 江口勝美. ANCA 関連血管炎の病態と治療における最近の知見. *日本臨床免疫学会会誌* 30 (6): 432-443, 2007.
- 117)折口智樹, 江口勝美. 開発メーカーが知っておきたい抗体医薬品 (抗リウマチ



- 薬)の有害事象. *Pharm Stage* 7 (5): 9-12, 2007.
- 118)江口勝美. 臨床免疫学概論. (木本雅夫, 阪口薫雄, 山下優毅 (編): *免疫学コア講義 改訂2版*, 南江堂, 東京, pp.169-175 所収), 2007.
- 119)江口勝美. 関節リウマチ. (木本雅夫, 阪口薫雄, 山下優毅 (編): *免疫学コア講義 改訂2版*, 南江堂, 東京, pp.203-208 所収), 2007.
- 120)江口勝美, 折口智樹. 感染性関節炎. (杉本恒明, 矢先義雄 (編): *内科学*, 朝倉書店, 東京, pp.1104-1105 所収), 2007.
- 121)江口勝美. 関節リウマチの早期診断法の確立及び臨床経過の予測に関する研究. 関節リウマチの早期診断法の確立及び臨床経過の予測に関する研究 平成18年度厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業)総括・分担研究報告書, pp.1-12, 2007
- 122)江口勝美. 関節リウマチに進展する早期関節炎の鑑別と早期からの関節破壊の予知に関する研究. 関節リウマチの早期診断法の確立及び臨床経過の予測に関する研究 平成18年度厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業)総括・分担研究報告書, pp.31-42, 2007.
- 123)江口勝美, 蒲池 誠. RNA スプライシング異常による SLE 発症機序の解明と新規治療法の開発. 自己免疫疾患に関する調査研究 平成18年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)総括・分担研究報告書, pp.81-83, 2007.
2. 学会発表
- 1) Iwamoto N, Kawakami A, Arima K, Nakamura H, Tamai M, Kawashiri S, Fujikawa K, Aramaki T, Kamachi M, Yamasaki S, Origuchi T, Ida H, **Eguchi K**. Monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) is important for mononuclear cell infiltration of salivary glands in patients with primary sjogren's syndrome (PSS). Annual European Congress of Rheumatology EULAR 2009, 2009.6.10-13, Copenhagen, Denmark.
- 2) Tamai M, Kawakami A, Uetani M, Takao S, Arima K, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Kawashiri S, Ichinose K, Kamachi M, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, Aoyagi K, **Eguchi K**. A prediction rule for disease outcome in patients with undifferentiated arthritis using mri of wrists and finger joints and serologic autoantibodies. Annual European Congress of Rheumatology EULAR 2009, 2009.6.10-13, Copenhagen, Denmark.
- 3) Tamai M, Kawakami A, Uetani M, Arima K, Fujikawa K, Iwamoto N, Kawashiri S, Kita J, Okada A, Koga T, Aramaki T, Kamachi M, Yamasaki S, Nakamura H, Ida H, Origuchi T, Aoyagi K, **Eguchi K**. A Prediction Rule for Disease Outcome in Patients with Undifferentiated Arthritis by MRI of the Wrists and Finger Joints and Serologic Autoantibodies: Second Report Regarding to the Utility of Plain MRI. ACR/ARHP Scientific Meeting, 2009.10.16-21, Philadelphia.
- 4) Koga T, Migita K, Yamasaki S, Tamai M, Kawashiri S, Iwamoto N, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, Kawakami A, **Eguchi K**. Serum Amyloid A Protein Stimulates Th17-Related Cytokines Production in Rheumatoid Synoviocytes. ACR/ARHP Scientific Meeting, 2009.10.16-21, Philadelphia.

- 5) Tamai M, Kawakami A, Kawashiri S, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Ichinose K, Kamachi M, Arima K, Nakamura H, Ida H, Origuchi T, **Eguchi K**. Anti-cyclic citrullinated peptide antibodies and genetic background as prognostic factors for the development of rheumatoid arthritis in patients with palindromic rheumatism. Annual European Congress of Rheumatology, 2008.6.11-14, Paris, France.
- 6) Tamai M, Uetani M, Kawakami A, Fukushima A, Arima K, Fujikawa K, Iwamoto N, Kawashiri S, Aramaki T, Ichinose K, Kamachi M, Nakamura H, Ida H, Origuchi T, **Eguchi K**. Bone changes detected by plain MRI of both wrists and finger joints in early-stage rheumatoid arthritis accurately reflect the bone changes in GD-enhanced MRI. Annual European Congress of Rheumatology, 2008.6.11-14, Paris, France.
- 7) Tamai M, Kawakami A, Uetani M, Takao S, Arima K, Fujikawa K, Iwamoto N, Aoyagi K, **Eguchi K**. Anti-cyclic citrullinated peptide antibody and magnetic resonance imaging-detection of bone marrow oedema are most important predictors in classification as well as prognostic evaluation of undifferentiated arthritis. 8<sup>th</sup> European League Against Rheumatism Annual European Congress of Rheumatology (EULAR 2007), 2007.6.13-6.16, Barcelona.
- 8) Ida H, Aramaki T, Ichinose K, Kawakami A, Migita K, **Eguchi K**. TNF receptor-associated periodic syndrome (TRAPS) in Japan: Its prevalence and the characteristics of Japanese patients with TRAPS. American College of Rheumatology 71<sup>th</sup> Annual Scientific Meeting (ACR 2007), 2007.11.6-11.11, Boston.
- 9) Aramaki T, Ida H, Nakamura H, Origuchi T, Kawakami A, Matsuoka N, **Eguchi K**. A decrease in natural killer cell activity in patients with rheumatoid arthritis during treatment with biologic agents: One of the risk factors for malignancy. American College of Rheumatology 71<sup>th</sup> Annual Scientific Meeting (ACR 2007), 2007.11.6-11.11, Boston.
- 10) Tamai M, Kawakami A, Uetani M, Takao S, Arima K, Fujikawa K, Iwamoto N, Kawashiri S, Iwanaga N, Izumi Y, Tanaka H, Aratake K, Kamachi M, Huang M, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, Aoyagi K, **Eguchi K**. Prognostic evaluation of undifferentiated arthritis (UA) at baseline through magnetic resonance imaging (MRI)-detection of early joint damages and serologic variables: Results from the prospective clinical study. American College of Rheumatology 71<sup>th</sup> Annual Scientific Meeting (ACR 2007), 2007.11.6-11.11, Boston.
- 11) 中浦美江, 荒牧俊幸, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 中村英樹, 井田弘明, 川上 純, 江口勝美. シェーグレン症候群に合併した組織球性壊死性リンパ節炎(菊池病)の1例. 第284回日本内科学会九州地方会, 2009.1.24, 福岡.
- 12) 川上 純, 玉井慎美, 岩本直樹, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 有馬和彦, 蒲池 誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 上谷雅孝, 青柳 潔, 江口勝美. 関節リウマチを早期に予測するには? 第53回日本リウマチ学会総会・

- 学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
- 13) 川上 純, 玉井慎美, 岩本直樹, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 有馬和彦, 山崎聡士, 上谷雅孝, 青柳 潔, **江口勝美**. MRI 骨変化と自己抗体が陽性の UA に対する DMARDs 治療の評価. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
  - 14) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 有馬和彦, 岩本直樹, 藤川敬太, 山崎聡士, 川尻真也, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳 潔, **江口勝美**. 診断未確定関節炎(UA)における非造影手関節 MRI の有用性の検討. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
  - 15) 有馬和彦, 岩本直樹, 玉井慎美, 折口智樹, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 蒲池 誠, 山崎聡士, 中村英樹, 井田弘明, 川上 純, **江口勝美**. 早期関節リウマチ患者での MRI 骨髄浮腫と MMP-1 遺伝子多型. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
  - 16) 右田清志, 古賀智裕, 鳥越雅史, 本川 哲, 宮下賜一郎, **江口勝美**. 急性期蛋白による RA 滑膜からの CCL-20 の産生. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
  - 17) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 有馬和彦, 岩本直樹, 藤川敬太, 川尻真也, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 山崎聡士, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳 潔, **江口勝美**. 診断未確定関節炎の評価. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
  - 18) 岩本直樹, 藤川敬太, 玉井慎美, 中村英樹, 折口智樹, 井田弘明, 上谷雅孝, **江口勝美**. 関節リウマチにおける生物学的製剤投与前後の手関節 MRI の検討. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
  - 19) 川尻真也, 川上 純, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, **江口勝美**. 関節リウマチにおける末梢血 CD4+CD25+CD127lo/-制御性 T 細胞の検討. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
  - 20) **江口勝美**. 診断未確定関節炎の診断と治療. 第 53 回 日本リウマチ学会総会・学術集会, 2009.4.23-26, 東京.
  - 21) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 岩本直樹, 藤川敬太, 有馬和彦, 高尾正一郎, 折口智樹, 青柳 潔, **江口勝美**. Leiden score と Nagasaki score を用いた診断未確定関節炎の評価. 第 106 回 日本内科学会講演会, 2009.4.10-12, 東京.
  - 22) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 有馬和彦, 喜多潤子, 岡田覚丈, 川尻真也, 古賀智裕, 岩本直樹, 山崎聡士, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳 潔, **江口勝美**. 早期関節リウマチにおける抗 CCP 抗体価と骨破壊予測. 第 24 回 日本臨床リウマチ学会, 2009.11.20-21, 岩手.
  - 23) 川尻真也, 岩本直樹, 折口智樹, 川上 純, **江口勝美**. 当科の関節リウマチ診療における関節超音波検査の活用法. 第 24 回 日本臨床リウマチ学会, 2009.11.20-21, 岩手.
  - 24) 川尻真也, 川上 純, **江口勝美**. 関節リウマチにおける末梢血 CD4+CD25+CD127low/-制御性 T 細胞の検討. 第 37 回 日本臨床免疫学会総会, 2009.11.13-15, 東京.
  - 25) 岩本直樹, 岡田覚丈, 喜多潤子, 古賀智裕, 川尻真也, 蒲池誠, 玉井慎美, 有馬

- 和彦, 山崎聡士, 中村英樹, 折口智樹, 井田弘明, 川上 純, 上谷雅孝, 江口勝美. 関節リウマチにおける生物学的製剤投与前後の手関節 MRI の検討. 第 37 回 日本臨床免疫学会総会, 2009.11.13-15, 東京.
- 26) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断と関節破壊進行の予測. 第 105 回日本内科学会講演会, 2008.4.11-4.13, 東京.
- 27) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 福島 文, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 有馬和彦, 青柳 潔, 江口勝美. 単純 MRI の有用性: 診断未確定関節炎の早期治療開始に向けて. 第 105 回日本内科学会講演会, 2008.4.11-4.13, 東京.
- 28) 江口勝美. MRI 画像による関節リウマチの早期診断予測と関節破壊進行予測. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 29) 井田弘明, 一瀬邦弘, 荒牧俊幸, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 折口智樹, 川上 純, 右田清志, 江口勝美. TRAPS 全国疫学調査と TRAPS が疑われた不明熱症例の検討. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 30) 井田弘明, 一瀬邦弘, 荒牧俊幸, 江口勝美. 本邦における自己炎症症候群の定義の検討. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 31) 古賀智裕, 右田清志, 宮下賜一郎, 鳥越雄史, 本川 哲, 江口勝美. 血清アミロイド A 蛋白の RA 滑膜細胞に対する影響. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 32) 玉井慎美, 上谷雅孝, 川上 純, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 有馬和彦, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳 潔, 江口勝美. 早期関節リウマチでの両手撮像 MRI. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 33) 江口勝美, 上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美. MRI 画像による関節リウマチの早期診断予測と関節破壊進行予測. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 34) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断予測と適切な治療. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 35) 荒牧俊幸, 井田弘明, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 一瀬邦弘, 中村英樹, 川上 純, 折口智樹, 中島宋敏, 塚田敏昭, 松岡直樹, 植木幸孝, 福田孝昭, 江口勝美. 多施設における関節リウマチに対するタクロリムスの使用成績(第二報). 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 36) 藤川敬太, 川上 純, 藤本 学, 桑名正隆, 佐藤伸一, 江口勝美. 皮膚筋炎で検出される抗 140kD 抗体および 140/155kD 抗体の臨床的意義. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 37) 川上 純, 玉井慎美, 藤川敬太, 岩本直樹, 川尻真也, 江口勝美. 抗 CCP 抗体と関節リウマチの診断・病態. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国